

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第10号

令和7(2025)年1月24日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

病害虫の早期発見に努め、適切に防除しましょう！

予想期間 1月下旬～2月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない。(－)
・ 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、放置せずに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
・ 予防を主体に、ファンタジスタ顆粒水和剤(RAC コード F:11)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比124%、株率：平年比100%)。(±)
・ 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
・ 予防を主体に、アフェットフロアブル(F:7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比98%、株率：平年比100%)。(±)
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比179%、株率：平年比167%)。(±～+)
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 花を良く観察して、低密度のうちに、マッチ乳剤(I:15)等を散布する。
・ ハウス内で越冬したアザミウマ類は1～2月頃から増殖しはじめる。春先の被害を抑えるため、秋に発生が認められたハウスでは、マッチ乳剤(I:15)等で適切に防除する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

5 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比135%、株率：平年比300%)。(±～+)
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 被害株周辺のマルチには、アブラムシ類の分泌する甘露や白い脱皮殻が付着するため、被害株を見つける目安となる。

- ・ほ場をこまめに観察し、発生を確認したらウララ DF (I:29) 等を葉裏にもよくかかるように散布する。

6 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 109%、株率：平年比 80%）。(±)
 - ・向こう 1 か月の気温は高く(一)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策
- ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 - ・発病した果実や葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。また、枯れ込んだ葉先から病徴が広がるため、こまめに取り除く。
 - ・予防を主体に、セイビアーフロアブル 20 (F:12) 等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ (HP) に掲載中。

7 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量はやや多い。(±～+)
 - ・向こう 1 か月の気温は高く(一)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策
- ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 - ・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・予防を主体に、トリフミン水和剤 (F:3) 等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

8 果菜類 コナジラミ類 (トマト：黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV)・きゅうり：退緑黄化病 (CCYV))

- (1) 発生予想 発生量： **多い**
- (2) 根 拠
- ・現在のコナジラミ類の発生量は、トマトときゅうりでやや多い。(±～+)
 - ・向こう 1 か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策
- ・ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部 (出入り口、側窓、天窗) に 0.4mm 目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
 - ・黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
 - ・ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 - ・耐病性品種を作付けした場合でも、コナジラミ類を防除する。
- (4) 備 考 [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
トマト	うどんこ病	平年並	平年並	きく	ハダニ類	やや少	平年並
にら	アザミウマ類	やや多	多		アザミウマ類	やや多	多

【 季節の病害虫防除対策 】

○水稲 スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

スクミリンゴガイは水田や用排水路で土中に潜って越冬します。県内では、足利市・小山市・野木町の排水路等で発生が確認されています。次作へ向けて、越冬密度を下げる以下の対策を行いましょ。

- ・トラクターによる耕うんを行い、越冬個体を物理的に破壊するとともに、寒風にさらす。
- ・水路の泥上げにより、越冬場所をなくし越冬個体を寒風にさらす。

○トマト・なす等 トマトキバガ

今年度、栃木県内で初めてトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺が確認されました (令和 6 (2024) 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号)。また、本県のトマトで被害が確認されましたので、ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょ。

○果樹類 病害

整枝・せん定作業時には、罹病枝を取り除くか被害部を削り取り、切口にゆ合剤を塗布しましょ。また、落葉は様々な病害の伝染源となるため、適切に処分しましょ。

【 農薬の安全使用等 】

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○「栃木県農薬危害防止運動」実施中（令和6年11月から令和7年1月）

- ・農薬は適正に管理しましょう。また、農薬を使用する際には、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- ・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

1か月気象予報（予報期間1月25日から2月24日 1月23日 気象庁発表）

- ・寒気の影響を受けにくいと、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます



～栃木県からのお知らせです～

11月～1月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- ・農薬散布のその後！ 防除器具の洗浄も必ず行いましょう！

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第11号

令和7(2025)年2月21日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

春は様々な病害虫が増え始める時期です。予防と早期発見で被害を防ぎましょう！

予想期間 2月下旬～3月中旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比42%、株率：平年比33%)。(一～±)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の平年並(±)、降水量は平年並(±)、日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- (3) 対 策 ・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、放置せずに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、セイビアフロアブル20(RACコード F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比55%)。(一～±)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の平年並(±)、降水量は平年並(±)、日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、アフェットフロアブル(F:7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (3) 対 策 ・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比87%、株率：平年比62%)。(±)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- (3) 対 策 ・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (3) 対 策 ・ 天敵を放飼する際にハダニ類が多いと防除に失敗しやすいため、事前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤でハダニ類の密度を抑制する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比59%、株率：平年比63%)。(一～±)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ ハウス内で越冬したアザミウマ類が急増する3月に備えて、この時期から早期発見・早期防除に努める。着色前の未成熟果を観察し、表面がサビ色になる幼虫の食害を認めたら、マツチ乳剤(I:15)等を散布して次世代の発生を防止する。
- (3) 対 策 ・ 1割以上の花で成虫の寄生がみられる時(要防除水準)には、ディアナSC(I:5)等を散布することで被害拡大を防ぐ。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

5 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比130%、株率：平年比157%)。(±)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 被害株周辺のマルチには、アブラムシ類の分泌する甘露や白い脱皮殻が付着するので注意して観察し、見つけたら適切に防除する。

- ・ 茎葉が繁茂すると薬剤がかかりにくく、防除に失敗しやすくなるので、葉かき後に薬剤を散布する。
- ・ ほ場をこまめに観察し、発生を確認したらベネビア OD (I:28) 等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ・ コレマンアブラバチ等の天敵製剤を使用する際は、アブラムシ類の密度が高いと抑制までに時間がかかるため、低密度のうちに導入する。また、導入後はこまめにアブラムシ類の発生か所を観察し、マミーができていることを確認する。

6 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 抛
- ・ 現在の発生量はやや少ない (ほ場率：平年比 47%、株率：平年比 31%)。(一～±)
 - ・ 向こう 1 か月の平年並(±)、降水量は平年並(±)、日照時間は平年並 (±) の見込み。
- (3) 対 策
- ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 - ・ 発病した果実や葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。また、枯れ込んだ葉先から病徴が広がるため、こまめに取り除く。
 - ・ 予防を主体に、フルピカフロアブル(F:9)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考
- ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ (HP) に掲載中。

7 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 抛
- ・ 現在の発生量が多い。(＋)
 - ・ 向こう 1 か月の平年並(±)、降水量は平年並(±)、日照時間は平年並 (±) の見込み。
- (3) 対 策
- ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 - ・ 適切な発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・ 予防を主体に、発生を認めたらファンタジスタ顆粒水和剤(F:11)等を葉裏によくかかるよう散布する。
- (4) 備 考
- ・ [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

8 トマト コナジラミ類 (黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV))

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 抛
- ・ 現在のコナジラミ類の発生量が多い (ほ場率：平年比 207%) (＋)。
 - ・ 向こう 1 か月の日照時間は平年並 (±) の見込み。
- (3) 対 策
- ・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努め、適切に防除する。
 - ・ ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 - ・ トマトでは黄化葉巻病の耐病性品種を作付けした場合でも、黄化病の被害やコナジラミ類の甘露による果実等の汚れが発生することがあるため、コナジラミ類の対策を実施する。
- (4) 備 考
- ・ [防除のポイントNo22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
きゅうり	うどんこ病	やや多	やや多	きく	ハダニ類	少	やや少
にら	白斑葉枯病	少	少		アザミウマ類	やや多	やや多
	アザミウマ類	やや多	やや多				

【 季節の病害虫防除対策 】

○水稲の種子伝染性病害の対策について

種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

近年、特に育苗期間中の高温が原因と考えられる病害 (もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など) の発生がみられていますので、適正な温湿度管理に留意しましょう。

○ハウス内で越冬した害虫の増加に注意

春先の気温の上昇に伴い、アザミウマ類やアブラムシ類、コナジラミ類など、ハウス内で越冬した害虫の増加が目立ち始めます。発生に気づくのが遅れてまん延を許すと、大きな損失に繋がるだけでなく、防除も困難となります。こまめにほ場を観察することで、早期発見に努め、被害発生前に適切に防除しましょう。

【 農薬の安全使用等 】

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・ 薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

- ・ 花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○農薬適正使用の徹底

- ・ 農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・ 農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・ 薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

1か月気象予報（予報期間2月22日から3月21日 2月20日 気象庁発表）

- ・ 期間の前半は気温の変動が大きいです。平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	30	50	20
降 水 量	40	30	30
日照時間	30	30	40

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます



令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第12号

令和7(2025)年3月14日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

春は様々な病害虫が増え始める時期です。予防と早期発見で被害を防ぎましょう！

予想期間 3月中旬～4月中旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比63%、株率：平年比50%）。（±）
 - ・向こう1か月の気温はほぼ平年並（±）、降水量はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策
- ・多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
 - ・取り残しの過熟果は発生源となりやすいので適期に収穫する。
 - ・発病した果実や果梗等は伝染源となるので、放置せずに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
 - ・予防を主体に、ファンタジスタ顆粒水和剤(RAC コード F:11)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考
- ・灰色かび病薬剤感受性検定結果を当センターホームページ（HP）に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は多い（ほ場率：平年比365%）。（+）
 - ・向こう1か月の気温はほぼ平年並（±）、降水量はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対策
- ・株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
 - ・予防を主体に、ショウチノスケフロアブル(F:9,U13)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
 - ・曇雨天時にはくん煙剤を使用する。なお、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間の実施は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比53%、株率：平年比63%）。（-～±）
 - ・向こう1か月の気温はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策
- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
 - ・天敵を放飼する際にハダニ類が多いと抑制までに時間がかかるため、事前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤でハダニ類の密度を抑制する。
- (4) 備 考
- ・ナミハダニ薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

4 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比104%、株率：平年比53%）。（±）
 - ・向こう1か月の気温はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策
- ・ほ場をよく観察し、マルチにアブラムシ類が分泌した甘露や白い脱皮殻を見つけたら適切に防除する。
 - ・茎葉が繁茂すると薬剤がかかりにくく、防除に失敗しやすくなるので、葉かき後に薬剤を散布する。
 - ・発生を確認したらウララ DF(I:29)等を葉裏にもよくかかるように散布する。コレマンアブラバチ等の天敵製剤を使用する際は、アブラムシ類の密度が高いと抑制までに時間がかかるため、低密度のうちに導入する。また、導入後はこまめにアブラムシ類の発生か所を観察し、マミーができていることを確認する。
- (4) 備 考
- ・ワタアブラムシに対する主要薬剤の殺虫効果を当センターホームページ（HP）に掲載中。

5 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 抛 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 180%、株率：平年比 278%）。（±～+）
 ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ ハウス内で越冬したアザミウマ類が急増するこの時期から早期発見・早期防除に努める。着色前の未成熟果を観察し、表面がサビ色になる幼虫の食害を認めたら、マッチ乳剤 (I:15) 等を散布して次世代の発生を防止する。
 ・ 1 割以上の花で成虫の寄生がみられる時（要防除水準）には、スピノエース顆粒水和剤 (I:5) 等を散布することで被害拡大を防ぐ。
- (4) 備 考 ・ 植物防疫ニュース No. 14、防除のポイントNo.19、アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②を当センターHP に掲載中。

6 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 抛 ・ 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 27%、株率：平年比 17%）。（－～±）
 ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、降水量はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 ・ 発病した果実や葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。また、枯れ込んだ葉先から病徴が広がるため、こまめに取り除く。
 ・ 予防を主体に、セイビアーフロアブル 20 (F:12) 等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ 灰色かび病薬剤感受性検定結果を当センターホームページ (HP) に掲載中。

7 トマト コナジラミ類 (黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV))

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 抛 ・ 現在のコナジラミ類の発生量は多い（ほ場率：平年比 188%）（+）。
 ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努め、適切に防除する。
 ・ ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 ・ トマトでは黄化葉巻病の耐病性品種を作付けした場合でも、黄化病の被害やコナジラミ類の甘露による果実等の汚れが発生することがあるため、コナジラミ類の対策を実施する。
- (4) 備 考 ・ 防除のポイントNo.22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果を当センターHP に掲載中。

8 たまねぎ ベと病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 抛 ・ 現在の発生量は多い（ほ場率：平年比 212%）。（+）
 ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、降水量はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
 ・ 発病株は伝染源となるので、速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。
 ・ 予防を主体にジマンダイセン水和剤 (F:M3) 等を散布する。発生が見られる場合は、オロンディスウルトラ SC (F:49, F:40) 等を散布する。曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。

9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
きゅうり	べと病	やや多	やや多	きく	アザミウマ類	並	並
	褐斑病	多	多		ハダニ類	やや少	やや少

【 季節の病害虫防除対策 】

○水稲の種子伝染性病害の対策について

種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

近年、特に育苗期間中の高温が原因と考えられる病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など）の発生がみられていますので、適正な温湿度管理に留意しましょう。

○麦類赤かび病

赤かび病は予防が重要です。出穂や開花の状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。

○ナシ黒星病の春期防除を徹底しましょう

当センターにおける2月27日発表の本年の幸水の開花始は4月18日で、昨年より4日遅い予測となっています。黒星病の第一次伝染時期であるりん片脱落期から開花後は最重要防除期です。果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に予防効果の高いDMI剤を散布しましょう。ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

○ハウス内で越冬した害虫の増加に注意

春先の気温の上昇に伴い、アザミウマ類やアブラムシ類、コナジラミ類など、ハウス内で越冬した害虫の増加が目立ち始めます。発生に気づくのが遅れてまん延を許すと、大きな損失に繋がるだけでなく、防除も困難となります。こまめにほ場を観察することで、早期発見に努め、被害発生前に適切に防除しましょう。

【 農薬の安全使用等 】

○薬剤抵抗性発達の抑制

・薬剤で防除する際には、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

・花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○農薬適正使用の徹底

・農薬は適正に保管・管理しましょう。

・農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。

・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

1か月気象予報（予報期間3月15日から4月14日 3月13日 気象庁発表）

- ・1週目の気温は低いですが、2週目はかなり高くなる可能性があり、期間の前半は気温の変動が大きいです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。





令和7(2025)年度 病虫害発生予報 第1号

令和7(2025)年4月18日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

春は様々な病虫害が増え始める時期です。予防と早期発見で被害を防ぎましょう！

予想期間4月下旬～5月中旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か少ない(±～-)見込み。
- (3) 対 策 ・ 出穂や開花の状況をよく観察し、麦種ごとの防除適期を逃さないよう、防除を徹底する。
・ 不稔粒が多いほ場は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。
・ 薬剤を複数回散布するときは、前回とRACコードの異なる薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース No. 2 \(麦類の赤かび病\)](#)、[防除のポイントNo.18](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比194%)。(+)
・ 向こう1か月の気温は高く(-)、降水量は平年並か少なく(±～-)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 取り残しの過熟果は発生源となりやすいので適期に収穫する。
・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、放置せずに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
・ セイビアーフロアブル(RACコード F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果](#)を当センターHPに掲載中。

3 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比315%)。(+)
・ 向こう1か月の気温は高く(-)、降水量は平年並か少なく(±～-)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
・ アフェットフロアブル(F:7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比56%、株率：平年比46%)。(一～±)
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比107%、株率：平年比125%)。(±)
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 早期発見のために着色前の未成熟果を観察し、表面がサビ色になる幼虫の食害があるか確認する。
・ 1割以上の花で成虫の寄生がみられる時(要防除水準)には、ディアナSC(I:5)等を散布することで被害拡大を防ぐ。

(4) 備考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト コナジラミ類 (黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV))

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生量はやや多い (ほ場率： 平年比 140%、葉率 257%) (+)。
・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、日照時間はほぼ平年並 (±) の見込み。
- (3) 対策 ・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努め、適切に防除する。
・ ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ トマトでは黄化葉巻病の耐病性品種を作付けした場合でも、黄化病の被害やコナジラミ類の甘露による果実等の汚れが発生することがあるため、コナジラミ類の対策を実施する。
- (4) 備考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 トマト うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い (ほ場率： 平年比 125%、株率： 平年比 217%)。 (±～+)
・ 向こう 1 か月の気温は高く (-)、降水量は降水量は平年並か少なく (±～-)、日照時間はほぼ平年並 (±) の見込み。
- (3) 対策 ・ 密植を避け、葉かきをこまめに行い通風と日当たりを改善する。
・ 予防を主体に、アフエットフロアブル(F: 7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。

8 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い。 (±～+)
・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は平年並か少なく (±～-)、日照時間はほぼ平年並 (±) の見込み。
- (3) 対策 ・ 雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
・ 発病株は伝染源となるので、速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。
・ 予防を主体にペンコゼブ水和剤 (F: M3) 等を散布する。発生が見られる場合は、ダイナモ顆粒水和剤 (F: 21、27) 等を散布する。曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。
- (4) 備考 ・ [タマネギべと病の発生に注意しましょう!](#)を当センターHPに掲載中。

9 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない。 (-～±)
・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、日照時間はほぼ平年並 (±) の見込み。
- (3) 対策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	やや多	きゅうり	べと病	平年並	平年並
トマト	灰色かび病	平年並	やや少		うどんこ病	平年並	やや少

【 季節の病害虫防除対策 】

○水稲の移植時期における病害虫対策

箱施用剤を使用し、いもち病や紋枯病等の病害やウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等の害虫の発生を抑制しましょう。特に常発地、多発地では、積極的に使用しましょう。

○いちご親株の管理

本ぼと親株の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょう。

○なし ナシ黒星病

果そう基部病斑 (芽基部病斑) の摘み取りを徹底し、DMI剤を散布しましょう。昨年多発したほ場では、芽基部病斑が多くなる可能性があるため、特に注意が必要です。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から2週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険があるので注意しましょう。

[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和7(2025)年4月現在、全国36都道府県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

[サツマイモ基腐病に注意!](#)を当センターHPに掲載中です。

○トマト・なす等 トマトキバガ

本県のトマトでトマトキバガによる被害が確認されています。茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗します。ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行きましょう。

[令和6\(2024\)年度病害虫発生予察特殊報第1号\(トマトキバガの誘殺について\)](#)を当センターHPに掲載中です。

○水稲 イネカメムシ

イネカメムシの越冬状況調査を実施した結果、足利市、栃木市、佐野市、小山市、壬生町、野木町の7市町で越冬を確認しました。越冬が確認された地域では、今年度、必ず出穂期頃と、その7～10日後(乳熟期頃)に液剤で防除しましょう。また、越冬が確認されなかった地域においても、発生が懸念されるため、定期的にはほ場を確認し、早期発見、適期防除に努めましょう。

[植物防疫ニュースNo. 1\(県南部でイネカメムシの越冬を確認しました\)](#)を当センターHPに掲載中です。

[カメムシ防除作戦のホームページ](#)も御確認ください。



○水稲 スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

スクミリンゴガイは、県内では、足利市・小山市・野木町の排水路等で発生が確認されています。もし、本田での発生を確認した場合には、移植苗の食害を防止するため、次の対策をとりましょう。

- ・水路で越冬した本貝の侵入を防止するため、取水口・排水口に網を設置(水路に発生している場合)。
- ・田植え時の薬剤散布(本田に発生している場合)。
- ・本貝の活動を抑制するため、田植え後の浅水管理(本田に発生している場合)。

その他の防除方法は、農林水産省の[防除対策リーフレット\(【春夏編】ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために\)](#)を御確認ください。

【 農薬の安全使用等 】

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

- ・花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○農薬適正使用の徹底

- ・農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

1か月気象予報(予報期間4月19日から5月18日 4月17日 気象庁発表)

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- ・高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	10	30	60
降水量	40	40	20
日照時間	30	30	40

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課 (TEL 028-665-1244) までお問合せ
ください。

病虫害情報発表のお知らせはX (旧ツイッター)「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総
合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧に
なれます。





病害虫の早期発見に努め、適切に防除しましょう！

予想期間 5月下旬～6月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 昨年9～10月の再生稲調査での本病の発生は平年並（ほ場率：68%、株率：4%）（±）。昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の発生量はやや少なく（-）、保毒虫率は平年並（±）であった。
向こう1か月の平均気温は高く（+）降水量は多い（-）見込み。
- (3) 対 策 ・ 昨年発生が多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備 考 ・ [令和6\(2024\)年度植物防疫速報No.13](#)を当センターホームページ（HP）に掲載中。

2 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比294%）（+）。
向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
- (3) 対 策 ・ 開花・出穂期での発生がない場合でも、不稔粒発生や曇雨天などによって登熟期後半に多発することがある。ほ場をよく確認し、収穫前日数に注意して追加防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.2](#)を当センターHPに掲載中。

3 トマト コナジラミ類 (黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV))

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比161%）（+）。
向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多い（-）見込み。
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
・ ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ 耐病性品種を作付けした場合でも、コナジラミ類を防除する。
・ 栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比107%、株率：平年比113%）（±）。
向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多く（+）、日照時間は少ない（+）見込み。
- (3) 対 策 ・ 多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。
・ 草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
・ 予防を主体にジャストフィットフロアブル（F:43、40）等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [キュウリべと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 果樹 カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数はやや少ない（±）。
向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多い（-）見込み。
- (3) 対 策 ・ 4mm目合い以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
・ 山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では、特にほ場をよく観察し、発生の有無を確認する。
- (4) 備 考 ・ 夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。
・ [チャバネアオカメムシの薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 なし ナシヒメシクイ

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数はやや多い (+)。
・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多い (-) 見込み。
- (3) 対 策 ・ 交信攪乱用フェロモン剤を設置する。
・ フェロモントラップ調査の誘殺ピークを参考に、薬剤散布時期を検討する。第二世代幼虫は第一世代成虫の誘殺ピーク (例年6月第2～3半旬頃) の7～9日後が目安。
- (4) 備考 ・ なしの新梢に幼虫が食入して引き起こした心折れの被害が確認された場合は特に注意する。
・ [フェロモントラップの調査結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
トマト	葉かび病	やや多	多い	なし	黒星病	平年並	やや多
	うどんこ病	やや多	平年並		アブラムシ類	平年並	平年並
きゅうり	うどんこ病	平年並	やや少	きく	ハダニ類	やや少	やや少

【 季節の病害虫防除対策 】

○施設栽培の病害虫

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病 (TYLCV：タバココナジラミ)やトマト黄化病 (ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。
- ・ また、施設栽培作物の栽培終了後には、次作に向けて土壌消毒を実施しましょう。植物残さ内の病原菌は消毒されにくいので、ほ場から植物残さを持ち出す等、適切に処分しましょう。また、効果的な土壌消毒の実施のためには、十分な耕起、砕土の実施や、適度な土壌水分管理が重要です。詳細は、[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針の技術情報](#)を御確認ください。
- ・ いちごは親株と本ぼの管理作業が重なる時期です。本ぼで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ぼ作業後に親株の管理作業を行わないようにしましょう。

○定植前後の防除の徹底

- ・ なす・ねぎ・にら等の野菜類では、定植前後の病害虫防除が重要です。育苗・定植時の粒剤・かん注剤の使用や、定植後の適切な薬剤散布により被害防止に努めましょう。

○うめ・もも・すもも等 クビアカツヤカミキリ (特定外来生物)

- ・ 暖かくなると幼虫の動きが活発になるため、フラス(木くず)の排出が盛んになります。県内での発生地域は拡大傾向にあるので、これまで発生が確認されていない園地においても見回りを行いましょう。発見時には農業総合研究センターまで御連絡ください。
[令和6\(2024\)年度植物防疫ニュース No. 3](#)を当センターHPに掲載中です。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・ 本県のトマトでトマトキバガによる被害が確認されています。茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗します。ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。
[植物防疫ニュース No. 3](#)を当センターHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和7(2025)年5月14日現在、全国36都道府県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。
[サツマイモ基腐病に注意!](#)を当センターHPに掲載中です。

【 農業の安全使用等 】

○農業危害防止対策

- ・ 農業は適正に保管・管理しましょう。
- ・ 農業を使用する際には容器のラベルに記載された内容を遵守し、農業による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・ 薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・ 薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

- ・ 花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○春の農作業安全確認運動

- ・ 4月～6月は「[春の農作業安全確認運動](#)」の実施期間です。
- ・ 農業機械の転落・転倒対策、熱中症予防対策、安全意識の向上のための対策等を徹底し、農作業安全に努めましょう。

1か月気象予報（予報期間5月17日から6月16日 5月15日気象庁発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	30	60
降水量	20	30	50
日照時間	50	30	20

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。

カメムシ防除作戦のホームページも御確認ください (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html>)。

